

「百聞は一見に如かず」現地に行つた先生だから、伝えられることがある。

エジプトで 出会った 日本人

エジプトでも多くの日本人が活躍しています。今回の研修で出会った3人をご紹介します。

心に残る言葉が
先生によって
教室へ伝え
られるんだね



看護で国際協力!

エジプトで活動中の
協力隊員

長田 典子さん

長田さんは、住み込みで活動する苦労と裏腹に、その屈託のない明るさが素敵な女性でした。長田さんの「学生の頃からの夢だった『国際看護』の舞台で、思っていた以上の困難や壁を感じ、自分の力や経験のなさを実感していますが、協力隊がゴールではなく、その出発点だと気づくこともできました。」という言葉に、帰国後の活躍を願わざにはいられませんでした。

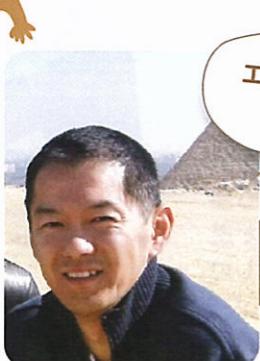


エジプトと日本の
架け橋に!

在エジプト
日本国大使

石川 薫さん

「資源の無い国である日本が生き残る道は、「グッドリスナー」に徹して国際関係の中で中立的立場を保つつつ、日本的な考えを広めていくこと。」という言葉は、今後の日本の在り方を示唆する重要なメッセージであると受け止めました。

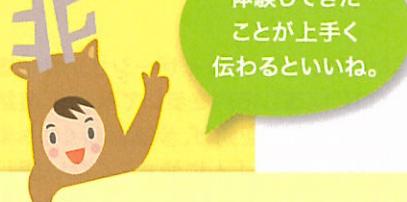


エジプトをこよなく
愛す熱い男!

JICAエジプト事務所
職員

田中 理さん

「限られた資源を共有しながら、増え続ける人口を支え、持続可能な発展を続ける宿命」というプレゼンテーションのテーマは、エジプトを例に挙げながらも我々を含めた地球全体に課せられたものであることを実感しました。現地での2年数か月の仕事と生活を経て、こよなくエジプトを愛する田中職員の熱い思いが、わずか1時間の中にびっしりと込められていました。



熱い思いを教室へ!

帰国後、授業案づくりに挑戦



エジプトから帰国して1ヶ月も経たない2/13(土)~14(日)の週末、先生たちが再び札幌に集いました。エジプト滞在中に出会ったさまざまな場面、そして人々から受け取ったメッセージを、どうすれば効果的に北海道の児童・生徒へ伝えられるのか…「写真やデータはいろんな情報源で補えるけれど、現地で得たインスピレーションを大事にしたい」と意気込む先生たち。北海道教育大学・大津和子教授のご指導の下、工夫を凝らした授業案はこのあとも改良を重ね、年度末から来年度にかけてそれぞれの教育現場で実践されます。先生が体験したエジプト、子どもたちはどのように受けとめてくれるでしょうか?



▲エジプトの民族衣装に身を包んだ先生たち。
2月24日市民セミナーにて

どうしのつながりが、北海道の開発教育/国際理解教育をさらに高めてゆきます。授業案はこのあとも改良を重ね、年度末から来年度にかけてそれぞれの教育現場で実践されます。先生が体験したエジプト、子どもたちはどのように受けとめてくれるでしょうか?

参加した先生 からの感想

エジプトでの研修を無事に終え、国際理解の極意を学んだ先生たちからのメッセージです。



たくさんの先生が
参加してくれたよ



茅室町立茅室西小学校
尾島未央先生

ストリートチルドレンが通う施設に行ったときのことです。お手玉を渡すとある男の子が三つのお手玉をそれは上手に操っていました。「やったことあるの?」の問い合わせに「いつもはこうやってるのさ。」と、小石を上手に投げて見せてくれました。ものがいなかでも自分で遊びを考えるその姿にたくましさを感じました。技術や知識においては教えることが多いと思っていた日本人ですが、もっと大事なものを教わった10日間でした。



和寒町立和寒中学校
今村恭子先生

「何でおもしろい人達だ!」これは、私が研修中に何度もつぶやいた言葉です。何度か手を振る人懐っこい姿。道路で感情をむき出しにしてケンカする姿。商魂たましく原価の何十倍を売りつける姿。困っている人に自然に手をさしのべる姿。様々なエジプト人の姿を見ました。かつての日本人のようなエネルギーッシュな生き方にパワーをもらいました。多くの施設で充実した研修できたことはもちろん、エジプト人ととの交流を通して自分自身の見方が柔軟に、幅広くなったことが一番の収穫でした。



6年前に青年海外協力隊として
エジプトに滞在していた
石井推進員が
今のエジプトをお伝えします。

タイムスリップ
写真で見る6年前と現在の違い

【公衆電話】

2003年

国際電話も簡単にかけることができる公衆電話としてとても便利でした。家の電話は、ちょっとつながらなくなっていましたが、この公衆電話はきちんとつながり、国際電話でも声がはっきり聞こえました。



【紙幣から硬貨へ】

2003年 紙幣50ピヤストル
紙幣は色で選別していました。文字を読まなくても一発でわかるのが便利でした。



2010年 硬貨50ピヤストル
硬貨は慣れませんでした。確かに美しく作られていますが、けっこう重量がありました。



授業実践第1号?

食品加工実習に
エジプトのパン登場



こんがり焼き上がったアエシ。
小麦は北海道産を使用。

帰国後3目にして、早くも授業で研修の成果を活かしたのは北海道当別高校の高木先生。食品加工の実習で、3年生が見事「アエシ」を焼き上げました!

「食」を通じてエジプトとつながる授業、今後の展開が楽しみです。

▲エジプトのパン「アエシ」を試食する
当別高校の生徒たち。
本場の味を再現できたかな?

